

開発と量産のポイント

開発

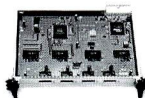
画像処理分野を中心に、常に新しい技術の開発を行っております。

その為のポイントは何でしょう？

1. 新しい技術を用いる回路と、実績ある回路の切り分け(空間フィルタ、ヒストグラム、パターンマッチング、ベクトル変換、画像合成等、数多くの実績有)。
2. 新規回路の実現手段を、複数案(できるだけ多く)用意する(アイデア勝負)。
3. それぞれのメリット、デメリットを整理。
4. 開発目的(機能優先、コスト優先等)、部品入手性(これが意外と重要です)により、実現手段を選定。
5. デバッグ時、予想と反した動作があった場合を想定して、回避手段の用意(KITのノウハウ)。
6. 十分な、シュミレータでのシュミレーション(特に入力条件の再確認)。
7. 検査(デバッグ)方法の確立(試行錯誤は、絶対禁止)。



これらを、配慮して下記のような基板が生まれました。



量産

量産(OEM供給)で、重要な事は、コストと品質ですよね？

では具体的に何を配慮すれば良いのでしょうか？設計時に配慮できる事も沢山あります。

1. コスト

部品選定の配慮で、コストダウンできますが、それ以上に重要なのは、不良率の低減につながる、検査性です。如何に短時間で回路全体の製造検査ができるかで、検査工数の削減や不良率の低減につながり、大きくコストに貢献します。

2. 品質

回路動作に十分なマージンがあることも、品質につながりますし、半田付けの仕上がりも重要です。「品質」とは、これだけ守れば良いと言うものではなく、「品質」に気を配る意識を忘れない事が重要だと考えております。

弊社の実績カタログを御用意しております。お気軽に御請求ください。

<http://www02.so-net.ne.jp/~kit/>

各社製品名は各社の商標または登録商標です。

Knowledge
Imaging
Technology

KIT

システム開発専門業社

株式会社

ケーアイテクノロジー

〒224-0032 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央19-1 タウンスクエア3階 TEL:045(949)5331(代) FAX:045(949)5332